

第6回日本喘息学会学術大会 開催にあたって

呼吸器・アレルギーセンター長 横山 彰仁



はじめに

本年(2025)年8月9・10日(土・日曜日)、ANAクラウンプラザ松山において、標記学会学術大会を開催させていただきます。私にとっては、国際喘息学会北アジア部会(高知)および日本呼吸器学会総会(京都)に続いて、3回目の全国学会の大会長を務めさせていただきますことになると思います。

テーマは「気管支喘息の全人的医療を目指して」

喘息は肺の病気ですが、様々な肺内・外の併存症、合併症が高頻度で見られます。高齢者では多病性が特徴であり、増加している高齢者喘息では、心不全やCOPD、フレイルや軽度の認知症などが合併することも多く、全人的視点が重要となります。このため、今回のテーマを「気管支喘息の全人的医療を目指して」とし、関連する特別講演、シンポジウム、教育講演を用意し、実臨床で役立つ知識を身につけることができる機会となるように計画しました。

特別講演としては、(いずれも仮題)「呼吸器疾患に合併した心不全」を愛媛大学 山口修教授、「好酸球性食道炎」を大阪公立大学 藤原靖弘教授、「総合診療から見た喘息治療」は千葉大学 生坂政臣教授にお話しいただく予定とされています。

日本喘息学会と喘息専門医

日本喘息学会は2019年に設立された新興の学会ながら、現在の会員数は1200余名で、喘息の研究者のほか多くの診療所医師が参加しておられます。

本会は喘息患者さんの90%以上を非専門医が診ているという実情から、こうした非専門医やメディカルスタッフの喘息診療を

底上げすることを設立の目的の1つとしており、本会で一般医向けのPGAM (Practical Guideline for Asthma Management)と称される喘息診療ガイドラインを作成しています。分かりやすいことを旨としており、広く利用いただいています。ガイドラインをしっかり理解し実践できることの証明として、喘息専門医試験も実施しており、多くのご開業の先生方を含む数百名の専門医を輩出しています。

また、呼吸器診療には吸入治療が必須であり、本会から吸入療法エキスパートのためのガイドブックを出しており、ホームページには正しい吸入方法も動画で公開し、患者指導に役立てていただいています。さらに昨年から吸入エキスパート試験(医師、薬剤師、看護師などが対象)も実施しており、約100名のエキスパートも誕生しています。

おわりに

今回は第6回目の大会ですが、初めて大阪・東京という大都市以外での開

催となり、また、夏休み期間の3連休中にあたる日程ということもあって、多くの先生方から松山・道後訪問を楽しみにしていると伺っています。これまでの実績から約800名の参加を見込んでおりますが、せっかく松山で開催される大会ですので、地元の先生方にも是非ご参加いただき、近年の進歩を実感、あるいは知識の再確認をお願いできれば幸いです。また喘息専門医や吸入エキスパートを目指しておられる方には、大会への参加が受験の要件でもあり、多くの方々の参加をお願いしたいと思います。さらに下記のような市民公開講座も予定しており、喘息患者さんやご家族の方にも参加を推奨いただければ幸いです。

喘息は子どもから高齢者まで、年齢や性別を問わず発症しうる、私たちにとても非常に身近な呼吸器疾患です。難治の咳や息切れ、呼吸困難などがございましたら、お早めにご相談いただければ幸いです。

第6回日本喘息学会総会学術大会

2025年 **8/10日** 14:30頃～(60分+QA15分程度)

会場

ANAクラウンプラザホテル
本館4階ダイヤモンドボールルーム

司会

横山 彰仁 先生(一般財団法人永頼会 松山市民病院)
中西 徳彦 先生(愛媛県立中央病院)

ごあいさつ

荻原 弘子 先生(杏の杜財団代表理事)
東田 有智 先生(日本喘息学会理事長/近畿大学病院長)

現在の「専門医」のしくみ(仮)

演者 横山 彰仁 先生(日本喘息学会専門医制度審議会議長/松山市民病院/高知大学)

喘息患者さんにご注意いただきたいこと(仮)

演者 福永 興彦 先生(慶応義塾大学 呼吸器内科)

最高・最善あるいは最先端の小児喘息治療とは?(仮)

演者 吉原 重美 先生(独協医科大学 アレルギーセンター長)

共催：一般社団法人日本喘息学会/一般財団法人杏の杜財団

市民公開講座 知っておきたい喘息の知識